

平成16年度

社団法人　さいたま観光コンベンションビューロー

事業報告

総括報告

さいたま観光コンベンションビューローは、さいたま市及びその周辺地域における観光コンベンション事業の発展と普及をはかり、市民文化の向上と地域経済社会の発展に寄与すること等を目的とする団体として、今年度も会員をはじめ行政機関や関係団体との密接な連携の基に、積極的な事業の推進をしてきたところである。

しかしながら、平成16年度の我が国経済は、大局的に見て景気の回復が続いていると言われながらも、個人消費の伸びは認められず、大変に厳しい景気状況が続き、当ビューローの事業活動を取り巻く経済環境も厳しいものであった。

一方、平成16年度は、当ビューローが旧三市の観光協会を統合した、国土交通省認可の公益法人として3年目を迎えたこともあり、本格的な観光コンベンション団体としての活動を求められ始めた年でもあった。

このため当ビューローの事業の推進にあたっては、従来の事務事業に加え平成16年度の新規・重点事業を中心に、事務事業の効率的実施と積極的展開に努めたところである。

先ず、外客及びコンベンションの誘致支援事業は、当ビューローの最も重要な事業であるとの認識の下に、観光客誘致キャンペーンに参加するとともに、コンベンション開催準備資金貸付制度の創設、国際ミーティング・エキスポへ出展、施設見学会の実施、コンベンション主催者へのセールス活動等を実施した。特に、今年度行った平成15年度のコンベンション経済波及効果の調査において、その経済波及額は174億円余りと見込まれ、今後のコンベンション事業活動の重要性が示された。

また、これら誘致事業と密接に関係する観光情報の提供事業では、インターネットホームページのリニューアルを行い観光情報の充実を行いつつ、広報誌“Sai's（さいず）”をはじめ、観光地図や案内の発行により各種情報の提供に努めた。

次に、各種催し物は、幸いにも全ての事業が天候に恵まれ、盛会裏にかつ無事に実施がなされ、多大な観光客の入込誘致並びに地域社会の育成と地域経済の振興に寄与することができた。

また、第59回国民体育大会の夏季・秋季大会及び第4回全国障害者スポーツ大会が開催され、この受け入れ、観光支援等に協力するとともに、この大会を契機に「ゆうパック」による土産品

販売等を実施し一応の成果を得ることができた。

さらには、浦和レッズのセカンド・ステージ優勝祝賀パレードの実行委員会へ参加する一方、地域行事等の後援及び支援を行い、地域文化の向上と地域コミュニティの育成等に寄与したところである。

加えて、平成17年4月のさいたま市と岩槻市の合併に伴い、当ビューローと岩槻市観光協会の合併協議を重ね、平成17年4月1日の両団体の合併が実現した。

この他、政令指定都市の観光コンベンションビューロー等で組織する大都市観光協会連絡協議会へ加入するとともに、JCCB、JNTO 等関係機関、団体との交流、情報交換に努めた。また、さいたま市と埼玉県が推進しているさいたまタワーの誘致委員会に加入し、誘致署名活動では2,200 余名を超える署名を集めた。

経営面では、補助金の削減や協賛金の減等による収入減に対応するため、各事業の実施及び当ビューローの運営において経費の削減、事務事業の効率的実施と運営に努めると共に、広告料と事業収入の増収に努めた。この結果、100万円余りの正味財産の増加を以って決算をすることとなった。

事業別報告

1 内外観光客及びコンベンションの誘致促進、開催支援並びに広報宣伝

(1) 観光客誘致キャンペーンへの参加

平成17年3月19日・20日、さいたま新都心けやき広場において「第2回 彩の国さいたま元気フェスタ～みどりと観光物産展～」に出展、観光マップ等の配布や推奨土産品の販売を行った。

(2) コンベンション主催者へのセールス活動

コンベンション開催地決定に大きな影響力を持つキーマンが在籍する県内の大学や病院、さらに首都圏の主催者やエージェンツ等に誘致セールスを行った。

(3) コンベンショントレードショウ「IME2004」への出展

12月7日～8日、東京国際フォーラムにおいて、日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー（JCCB）及び独立行政法人国際観光振興機構（JNTO）主催の「第14回国際ミーティング・エキスポ（IME2004）」へ市内コンベンション施設の協力のもと出展し、さいたまブースに来場した主催者・担当者等約350名に対し、本市への開催誘致を図った。（全来場者数2,037名）

(4) コンベンション施設見学会の開催及び施設内覧会への協力

1月31日、IME2004におけるさいたまブース来場者へのフォローアップ及び新規顧客の獲得を目的に、主催者・エージェンツ等を対象とした市内施設見学会（大宮ソニックシティ、さいたまスーパーアリーナ、大宮盆栽村、ジョン・レノン・ミ

ミュージアム)を開催し、参加者17団体36名に対し、各施設の特徴をアピールした。

9月27日、財団法人埼玉県産業文化センター主催の「大宮ソニックシティ施設内覧会」へ職員を派遣し、支援内容の説明、観光スポットの案内等を行った。

(5) コンベンション開催準備資金貸付制度の実施

主催者に対する資金貸付制度を事業化し、本市開催のメリットをアピールした。

(貸付実績：国際会議1件)

(6) コンベンション及び観光イベント開催時における臨時観光案内所・推奨土産品販売所の出店

彩の国まごころ国体及び国内会議1件に対し土産品販売所を設置し本市開催のメリットをアピールした。

(7) 来客者に対するターミナル駅への歓迎看板等の設置

国際・国内会議各2件に対しJR大宮駅またはJRさいたま新都心駅へ歓迎看板を設置し、本市のホスピタリティをアピールした。

(8) インターネットによる国内外への各種情報の提供

統合後初めてホームページ (<http://www.scvb.or.jp/>) を大幅に改定した。より内容を充実し、情報を整理し、6月にオープンした。年間訪問者数は327,269件(リニューアルのため、今年度は平成16年6月から平成17年3月までの10ヶ月間で測定)であった。特に花火大会前後には、アクセスが通常の10倍以上(1日で10,000件以上)に達した。

月	訪問者数(件)	内 容
平成16年6月	28,637	・ イベント情報の提供 ・ 観光・コンベンション施設情報の提供 ・ パンフレット類無料郵送サービス、ダウンロード ・ 電子メールによる観光・コンベンション会場相談、情報提供 ・ 宿泊施設案内 ・ 観光土産品紹介・販売 ・ 会員企業等のホームページの紹介とリンク ・ 携帯端末向けホームページなど
7月	42,773	
8月	61,763	
9月	28,829	
10月	27,762	
11月	25,759	
12月	26,414	
平成17年1月	28,785	
2月	25,362	
3月	31,185	
10ヶ月合計	327,269	
1ヶ月平均	32,727	
1日平均	1,076	

- (9) 広報誌「Sai's (さいず)」、コンベンション施設ガイド等の発行及び各種観光マップ・ポスターの作成・頒布の実施

＜広報誌「Sai's (さいず)」＞

会員、関係団体、一般市民、コンベンション主催者等へ向けた当ビューロー並びに観光・コンベンション情報の広報宣伝を行った。(年3回発行、夏号＝7月：15,000部、秋号＝10月：20,000部、春号＝3月：15,000部発行)

＜コンベンション誘致パンフレット＞

コンベンション主催者へ向けた誘致セールス用に作成。(3,000部発行)

＜さいたま市観光地図「ポケナビさいたま」＞

実際に本市に訪れたビジター客へ向けた情報検索の切っ掛けになる地図として作成。(100,000部発行)

＜さいたま市観光ガイドマップ「さいたまマップ」＞

「ポケナビさいたま」より詳細な観光情報を提供するため、さいたま市と共同で作成。(30,000部発行)

＜コンベンションバッグ＞

コンベンション参加者への支援のため、会議資料や抄録集を入れられる紙製手提げバッグを作成。(5,000部発行)

また、コンベンション開催支援として各種観光マップを33件約35,000部、コンベンションバッグを10件約7,000部提供した他、本市へ訪れたビジター客の利便性を高めるため、民間施設を含む会員事業所において観光地図の配布を行い、22事業所約45,000部を提供した。

- (10) 浦和駅西口地下道ショーウィンドーをはじめ、新聞・タウン誌、その他広告媒体による広報・宣伝の実施

2 観光及びコンベンションに関する調査研究並びに情報の収集・提供

- (1) 既存の観光事業の分析・検証及び観光資源の調査・新しい観光事業の研究
(2) コンベンション開催による経済波及効果調査の実施、データ提供

本市で開催されたコンベンションの実態を計数的に把握するため、15年度における年間開催件数及び年間経済波及効果、さらに16年度に開催された個別のコンベンション(2件)における経済波及効果を調査した。

また、コンベンション事業に対する行政及び民間各分野への理解と協力を働きかけるため、報告書を作成し関係機関等へ提出した。

- (3) コンベンションデータ(顧客名簿・開催意向)の保守管理及び更新

コンベンション主催団体などのデータを管理・更新し誘致セールスに利用した。

(4) 観光コンベンション団体、関係機関との広域的連携による情報収集

JCCB、全国コンベンション運営事業者協議会（CPA）、日本PCO協会の各総会及びJCCB主催のコンベンション・ビューロー部会、研修会等に参加し、他市ビューローや業界関係者との情報交換を行った。

また、JNTO等のコンベンション推進団体による各種統計・アンケート調査等に対して随時協力した。

(5) 大都市観光協会連絡協議会への参加による情報交換

政令指定都市の観光協会、コンベンションビューロー等で組織する大都市観光協会連絡協議会へ参加。様々な施策や課題などについて情報交換を行った。

(6) 岩槻市観光協会との合併に関する協議

行政の合併時期を見据え、臨時理事会を開催し、合併に関する役員間協議を設置、両団体の事務事業の擦り合わせを行うとともに、合併に向けた協議を行った。

なお、この合併については、第2回通常総会において承認を得た。

3 観光及びコンベンション振興のためのイベント等の開催並びに観光・物産の開発・振興

(1) 観光イベントの開催及び推進

行事名	期日	場所	入込／参加人数
さいたま市さくらスタンプラリー	4月3日	大宮公園・見沼グリーンセンター等	参加1,292人
さくら草まつり'04	4月17日 ・18日	さいたま市役所、さくら草公園	入込 市役所：15,000人 さくら草公園：110,000人
ばらまつり'04	5月18日 ・19日	与野公園	入込131,000人
大宮薪能	5月28日 ・29日	武蔵一宮氷川神社	鑑能者2,134人
氷川神社の茅の輪くぐりと植木草花市	6月30日	武蔵一宮氷川神社	入込13,000人
浦和祭りの推進（前夜祭・みこしパレード・おはやし・音楽パレード・浦和おど	音楽パレード・浦和おどり：7月18日	浦和駅周辺	音楽パレード：入込45,000人 浦和おどり：入込130,000人

り・地区会場行事)	みこしパレード：7月25日	浦和駅周辺	入込130,000人
	地区会場：7月25日	南浦和駅東口周辺	入込30,000人
与野夏祭り	7月17日・18日	与野本町通り周辺	入込220,000人
大宮夏まつり「スパークカーニバル」	7月31日・8月1日	大宮駅西口周辺入込数	入込290,000人
大宮夏まつり「中山道まつり」	8月1日・2日	大宮駅東口周辺	入込270,000人
大宮夏まつり「大宮日進七夕まつり」	8月6日・7日	日進駅前通り周辺	入込150,000人
さいたま市花火大会	8月14日	荒川総合公園	入込800,000人
さいたま市民まつり	10月9日・10日	さいたまスーパーアリーナ	入込330,000人
クリーンさいたま釣りの祭典	10月17日	びん沼川周辺	参加308人
十日市	12月10日	武蔵一宮氷川神社	入込150,000人
十二日まち	12月12日	調神社	入込135,000人
大宮Bonsai大学	3月7日	見沼グリーンセンター・盆栽村	参加48人
合計		入 込 計 2,619,000人	

(2) 各種イベント・地域観光振興事業の協賛後援事業

大盆栽まつり・さいたま太鼓エキスパート2004・彩の国さいたま元気フェスタ・大歳の市(十二日まち)・大正時代まつり・与野七福神めぐり・大宮日進七夕まつり・うなぎまつり・コラボさいたま、咲いたまつり他

(3) さいたま市観光写真コンクールの実施

79人、207点の応募があり、以下の作品が入賞した。

推せん『ヤットサーヤットサー』 牧瀬正博氏

特選 4名 準特選 6名 入選 5名 佳作 10名

(4) 推奨土産品の広報及び販売推進

本年度新たな取組として、インターネットホームページによる推奨土産品の販売を試験的に導入した。また、観光案内所等での売上は、1,591,820円であった。

(5) 観光グッズ等の開発

新たな観光グッズとして、手ぬぐい半天を制作し、販売した。678,500円の売上があった。

(6) その他協力事業

第59回国民体育大会夏・秋季大会 彩の国まごころ国体及び第4回全国障害者スポーツ大会への協力として、ゆうバックカタログ販売を実施。323個、1,020,800円の売上があった。

Jリーグチーム「浦和レッドダイヤモンズ・大宮アルディージャ」への積極的支援及び協力

さいたまタワーの実現に向けた誘致活動への署名運動への協力（2,221名）

海外姉妹都市との交流事業への協賛

友好都市との連携事業の推進

4 内外からの来訪客に対する“おもてなしの心”の普及・啓発

(1) 「おもてなしの心」セミナーの開催

6月23日、第一部、講師大野勢太郎氏（FM NACK5パーソナリティー）による「おもてなしの心で創造する街」、第二部、講師兵藤八郎氏（さいたま市総務局国体事務局長）による「彩の国まごころ国体〜とどけ この夢 この歓声〜」と題し、おもてなしの心の普及・啓発を目的としたセミナーを開催した。（会場＝シーノ大宮・生涯学習総合センター 参加者＝96名）

(2) ボランティア団体の調査

(3) 伝統芸能・文化団体の紹介

(4) ターミナル駅の歓迎幕の設置によるホスピタリティの啓発

JR大宮駅西口及びJRさいたま新都心駅内に「ようこそ さいたま市へ」と記載した横幕を掲出し、本市に訪れたビジター客へ歓迎の意を表すとともに、市民へホスピタリティ啓発のアピールを行った。

5 観光案内所、その他関連施設等の管理及び運営

(1) 観光案内所・インフォメーションセンターの管理運営

大宮観光案内所（JR大宮駅構内）、浦和観光案内所（JR浦和駅西口前）、北浦和インフォメーションセンター（JR北浦和駅東口前）

観光案内業務

各種パンフレット配布業務

推奨土産品、観光グッズ、委託物品の販売業務

チケットぴあ業務（手数料収入8,967,634円）

また、大宮観光案内所に関しては、平成17年度からの移転に伴い、さいたま市・JR東日本大宮支社との調整をはかった。さらにさいたま新都心観光案内所の運営開始に向けた準備を行った。

（2）観光施設の維持管理

花の名所の維持管理

6 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

（1）会員紹介キャンペーンの実施（今年度新規会員 43社）

4～6月までの3ヶ月間に渡り、会員紹介キャンペーンを実施した。

（2）会員名簿の作成及び会員相互の交流の場の提供

新春賀詞交換会を平成17年1月20日、ホテルブリランテ武蔵野にて開催。

来賓10名、会員136名の参加があった。

（3）功労者・会員表彰制度の実施

本年度より、新たに導入した。観光コンベンション事業に功績のあった功労者6名を平成16年6月10日開催の通常総会において表彰した。

（4）総務企画・観光事業・コンベンション事業各委員会活動の充実

新たな試みとして、3委員会合同で先進観光都市である、横浜市の施策である、「横浜観光プロモーションフォーラムの現況について」視察した。各委員会より計12名、さいたま市より1名、事務局より8名の合計21名が参加、先進的な取組であるフォーラム活動について講話をいただいた。

（5）観光オリジナルグッズ、観光名刺等の販売による収益事業の推進

グッズ等売上1,745,183円

（6）公共施設等における自動販売機の設置による収益事業の推進

年間売上3,943,569円

（7）その他、収益事業の積極的推進